

## 阪神大震災に関する学生の意識調査

福山大学工学部 正員 千葉利晃  
 福山大学大学院 学生員 ○小西浩史  
 機動建設工業 小野孝幸

### 1. まえがき

兵庫県南部地震では、死者が5500人を越す大災害となった。交通網も大きな被害を受け、道路は大渋滞に陥った。電話も不通となり緊急連絡もできず、消火活動に支障をきたし救助作業は難航した。これら道路の渋滞や電話の不通が、被害をより大きくした点は、今後の防災対策上見落とすことは出来ない。道路の渋滞や、電話の不通の原因を究明するためのアンケート調査は、被災地の住民を対象に行うのが一般的であるが、今回のような大災害時においては、被災地以外の住民も無関係とは思われない。したがって、この道路の渋滞や電話の不通に、被災地以外の方がどの程度関わっているのか調査するために、福山大学の学生を対象にアンケート調査を行ったのでここに報告する。

### 2. アンケート調査結果と考察

阪神大震災が起こった後の福山大学の学生がどのような行動を取ったか、また防災訓練(地震災害関係)を受けたことがある人とない人との違い、出身地、学部による違いはあるかなどについて図-1に示すアンケート調査を行った。調査日時は、地震発生から2週間後の1月31日から2月3日にかけてである。

阪神大震災(1月17日(火)午前5時46分)に関するアンケート  
 (土木工学科 千葉研究室)

1. 学部 1) 経済学部 2) 工学部 3) 薬学部
2. 性別 1) 男 2) 女
3. 出身府県名
4. 家族、友人などが京阪神地方に住んでいますか?  
 1) 住んでいる 2) 住んでいない
5. 家族、友人などに、今回の地震による被災者がいますか?  
 1) いる 2) いない
6. 地震発生時(2月17日)、家族、友人などに安否を確認しましたか?  
 1) 確認した → [確認方法] 1. 電話をかけて確認  
 2) 確認していない 2. 電話を受けて確認  
 3. 現地に行って確認  
 4. その他 ( )
7. 安否を確認するために電話をかけた人にお聞きします  
 1. 電話はすぐにつながりましたか 1) はい 2) いいえ  
 2. 電話をかけた相手とあなたとの関係は?  
 3. 電話をかけた地域  
 4. 電話をかけた回数  
 5. 電話をかけ始めた時間  
 つながった時間
8. 被災地に行きましたか?  
 1) はい → 1. 行き先  
 2) いいえ 2. あなたとの関係  
 3. 出発した日時  
 4. 到着した日時  
 5. 交通手段とルートを詳しく書いてください
9. 阪神大震災に関心がありますか?

10. テレビニュースをどの位見ましたか?  
 17日 ( 時間位) 18日 ( 時間位)  
 19日 ( 時間位) 20日 ( 時間位)  
 21日 ( 時間位)
11. 新聞記事(災害関連)をどの位読みましたか?
12. 今回の震災であなたが行った救援活動は?  
 1) 義援金 2) 救援物資 3) 支援活動  
 4) その他 5) 特になし
13. 普段、地震に対してどんな準備をしていますか?  
 ( )
14. 防災訓練(地震災害関係)を受けたことがありますか?  
 1) ある  
 2) ない
15. 避難しなければならなくなった場合、どうやって避難しますか?  
 1) 車で避難 2) オートバイ、自転車  
 3) 徒歩で避難 4) その他
16. 家族などの安否を確認する場合の手段を使いますか?  
 1) 電話 2) 車で現地へ行く  
 3) オートバイ、自転車  
 4) 相手からの連絡を待つ  
 5) テレビ、ラジオなどの情報を見る 6) その他
17. 車を運転中に大地震が発生したとします。どうしますか?  
 ( )
18. 家に居るときに大地震が発生したとします。どうしますか?  
 ( )
19. 地震被害を想定した防災マニュアルが福山市にあると思いますか?  
 1) あると思う 2) ないと思う
20. 福山市の広域避難場所を知っていますか?  
 1) 知っている 2) 知らない

図-1 アンケート表

アンケートの結果、経済学部76人、工学部83人、薬学部51人、計210人(男150人、女60人)の解答を得た。図-2は1月17日の地震発生日に肉親等の安否を確認した確認方法と人数を示したものであり、図-3は安否を確認した地域と相手との関係、図-4は1月17日に安否を確認するために電話をした回数を示したものである。これらの図から分かるように、地震発生時だけでも87人(40%)の学生が、電話をかけて安否を確認し、また、神戸市在住の相手につながるまでに10回以上も電話をかけた学生が7人もいる。なお、電話がつながるまでにかけた最高回数は50回であった。通信施設の被害に加えて、このように全国各地から安否の電話がかかるため、阪神地区で地震発生後電話が不通となり、長期間通信困難な状況が続き、緊急連絡に

多大な影響を与える結果となった。

図-5は今後地震災害発生時に家族などの安否の確認方法を聞いたものであるが、電話が155人(58.7%)、車で現地に行くと答えた学生が10人(3.8%)であった。

図-6は地震が発生し避難しなければならなくなった時どのようにして避難するかを聞いたものであるが、車で避難すると答えた学生が27人(13.1%)もいる。

表-1は今回被災地に向いた人数を示したものである。神戸市に3人、加古川市に2人の計5人が被災地に行っている。また、5人のうち4人が兵庫県出身者であった。また交通手段としては、車が4人と多い。これは鉄道に地震による被害が出ているためと考えられるが、図-5、6の結果からみると、鉄道の被害がなければ車で全員行ったものと思われる。

阪神大震災において、電話は不通になり、主要道路が避難する車などによって大渋滞になっていたり、倒壊した構造物で道路が寸断されたりして、緊急連絡や人名救助・消火活動などの緊急車両の通行に多大の影響を与えたとのテレビなどの報道があったにもかかわらず、このような結果となっている。これらのことは、今後とも地震が発生したとき、電話は不通になり道路は避難する車で身動きとれなくなることを示している。

3. あとがき

阪神大震災において、電話の不通や道路の渋滞などに被災地以外の人がどの程度係っているかについて、福山大学の学生を対象にしてアンケート調査を行ったが、今回のような大災害が発生した場合、被災地以外の市民も災害の拡大に大きく関係していることが分かった。また、今回のアンケート結果は、災害に対する教育があまりされていないこと、教育がされていたとしても、あまり身につけていないことを示している。したがって、地震発生時にとるべき行動を、市民に今後十分教育しておく必要があることを示しており、防災訓練の必要性を痛感させられる結果である。

表-1 被災地に向いた人数

学部	性別	出身地	行き先	あなたとの関係	出発した日時	到着した日時	手段	ルート
薬学部	男	兵庫県加古川市	兵庫県神戸市	恩師	19日7時	19日10時	車	山陽道-播但道-中国道-神戸北有料道
工学部	男	兵庫県神戸市	兵庫県神戸市	親	26日12時	26日6時	車	2号線 姫路バイパス
経済学部	男	兵庫県姫路市	兵庫県加古川市	特になし	28日10時	28日12時	車	2号線
工学部	男	広島県安芸市	兵庫県神戸市	友人	29日2時	29日8時	車	2号線 7-N-Nakayai
工学部	男	兵庫県加古川市	兵庫県神戸市	特になし	30日10時	30日12時	電車	山電 尾上の松-明石 J R 明石-神戸

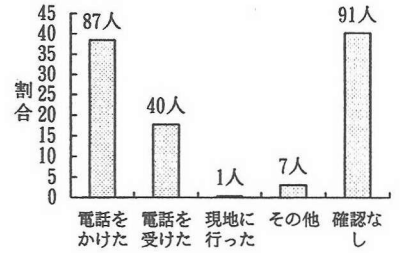


図-2 安否の確認方法(1月17日)

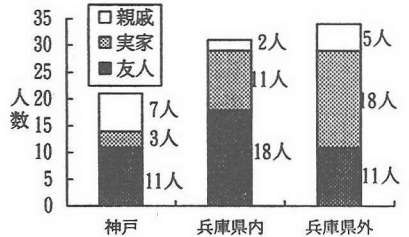


図-3 安否を確認した地域(1月17日)

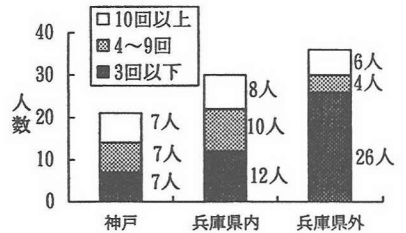


図-4 電話をかけた回数(1月17日)

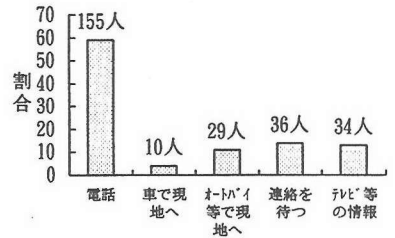


図-5 安否の確認方法(今後地震時)

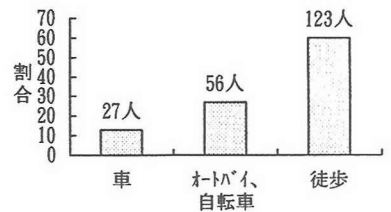


図-6 避難方法(今後地震時)